

# 自由記述

【問16 同和問題（部落差別）についての自由記述】

問16 同和問題（部落差別）について、日ごろ感じていることがあれば、自由にお書きください。

16～19歳

- ◆ 同和問題について学習しなければいけないとは思いますが、具体的な情報（被差別部落の場所等）を交える必要はないと思う。（無職）
- ◆ 被差別部落の方々が、差別を解消するために昔から大変な苦勞をしていらっしやり、今もまだそれが続いていることは知っている。実際に、私の近隣にも被差別部落があり、小・中学校において議論がなされたり、公共施設で小中学生への教員が行われてきた。私としては、他人ごとのようにとらえないよう、常に自分が当事者だったらどんな思いだったろうか、と考えているが、被差別部落の方々を他と違うと考えたことなど今までの人生で一度たりともないし、同和地区出身の友人とも親しく過ごしてきたため、実際に差別があったとは信じられない気持ちもあるが、決して部落差別を軽視しないよう向き合っていきたいと考えている。（学生）
- ◆ 同和問題がなくなってほしいと思う。（学生）
- ◆ くだらないと思う。（学生）

20～29歳

- ◆ 年配者は未だに部落の人との間の子供は障がい者になると言っている。また、同年代の人も同じく、障がい者が生まれると言っている人もいて驚いた。（医療・福祉）
- ◆ 特に祖母から「あそこは部落差別があった場所だ」とかいう話を何回も聞いて「そんなこと言ったらいけんよ」と不快な気持ちになる。結婚も身元調査をしろ！みたいな。（医療・福祉）
- ◆ そんな部落差別をするような奴らはちっぽけだと思う。みんな同じ人間なのに・・・。（会社員・団体職員）
- ◆ 私の年齢では授業での教育が進み、同年代で同和問題が取り沙汰されるような事は見受けられませんでした。（20代後半）しかし、結婚などは様々な意見・思想が絡むため現実的に起こりえる問題だと感じています。（会社員・団体職員）
- ◆ とくに何も感じない。回りにも部落差別についてどうこう言う人もいないし…。もし言っている人がいたら「考えふるいなー。昭和だなー。」って思う。今時部落でどーこー言ってる人って若者じゃなくて昭和生まれのおじさんおばさんでしょ。考え方がふるいから頭もかたい人間ばっかだと思ふ。まじ昭和な考えだるいなー（笑）（専門職・自由業）
- ◆ 同和問題に関する授業を受けた子ども達と接する機会があった時に感じた事です。子ども達はこの問題のことを十分に理解できておらず、逆に中途半端に得た知識を使った遊びが始まることがありました。今の子ども達を見ていると、同和問題を意識していないように思いました。むしろ授業で習ったため、意識するようになったのではないかと思いました。あえて子ども達に学ばせないという選択もあるのではないかと思いました。（公務員）
- ◆ 学校で習ったけど、実際に出会ったことが無く何が同和問題なのかよく分からない。（教職員）

- ◆ 部落差別があることを知識として知っているが、実際どの辺りがその地域だと聞いても何も思わない。若い人はあまり気にしていないのでは？（公務員）
- ◆ 未だに部落差別をしている人がいるなんて信じられない。その部落に住むだけで差別するのはおかしい話だと思う。（学生）
- ◆ 同和地区と政治団体との結びつきに疑問を感じる。（公務員）
- ◆ 自分自身、身近にいないか、いてもその事実を知らないので、授業でしか学んだことはないが、そういう差別があるということは認識している。（学生）
- ◆ 部落差別をする気はないが、その辺に住む住民の方たちの、交通マナーなどが悪かったりすると、残念な気持ちになることがある。（会社員・団体職員）
- ◆ 年々、同和問題を問題と考える人が減少してきていると思う。（公務員）
- ◆ インターネットの書き込みによる誹謗中傷や、外国で起こっている人権差別問題によるデモも、決して他人事ではないと思う。他人の心を考えず発言したことで相手を傷つけ、自殺する人もいる。何かを発言するときは必ず、「その言葉で誰か傷つかないか」を考えなければならない。でも、差別の問題も、誹謗中傷も、世界から完全になくならせるのは難しいと思うけど、一人一人がそれを打ち勝つ、心の強さや支えてくれる人など、何かあればいいと思う。（無職）
- ◆ 数年前に結婚した際、相手親族に身元調査され、被差別部落出身であることをあばかれました。紆余曲折あったものの、無事結婚することができ、今までは相手方親族とも付き合いがありますが、その時のことが心に残り、今でも出身地を聞かれるのが怖いです。また相手実家に伺った際にこの話題を切り出された際は、「嫌われてしまうのではないか」「破談になってしまうのではないかと」、反論することができませんでした。今まで、地区の学習会などを通してこんな時のために学んでいたのに、悔しくてたまりませんでした。（公務員）
- ◆ 日常生活の中で考えることは全くないですが、改めて考えると、部落差別は「昔の人」の考えに過ぎず、現状それが存在することは想像もつきません。今の時代、部落差別をする理由もないですし、価値もないと考えます。（その他）
- ◆ 小学生の時に授業で習ったが、それがなければ同和地区、部落差別などの言葉（存在）事態を一生知ることはなかったと思う。県外の知り合いに教師をしている人がいるが、同和問題についてこんなに授業をしているのは鳥取くらいだと聞いて驚いた。今の子どもたちは知らない事なので、逆に授業をすることで余計な知識を与えていると思う。（会社員・団体職員）
- ◆ 当事者には申し訳ないが、まだ問題としてあがっていることが不思議。差別している人間と対面したら、人として2度と関わろうと思わない。（役員・自営業）

### 30～39歳

- ◆ 授業で習った時からその場所に生まれた。ただそれだけで何故差別されるのかが理解出来ず、未だに疑問。意味が分からない。差別は理不尽なものであるが、部落差別は特に理不尽だと思う。まだしている人がいるのであれば、早くなくなるべきと強く思う。全ての「差別」というものに対して、もそうであるが・・・。（無回答）

- ◆ 同和地区の方々の被害者意識が強すぎる時があり、ある意味、公平のバランスが崩れる場面がたまにある。同和地区として行政が特別扱いする限り、公平性は見えてこない気がする。ただ、地区によって差別が未だにあり、差別によって苦しむ方の救済は必要であり、細かな見極めが重要だと思う。また、同和地区、被差別部落の呼称も差別用語な気がする。(会社員・団体職員)
- ◆ 祖母から詳しく話を聞いたことがあるので思う事でも妻と付き合う前に「部落出身だけど問題ない？」と聞かれた。まったく気にしない僕からすると正直こういうことで差別している人間がいるということに怒り、バカバカしさを覚えた。(会社員・団体職員)
- ◆ 私自身はあまり気にしていないが、親世代が気にしているので結婚や物件選びの際に考慮してします。(会社員・団体職員)
- ◆ 身近にないのでピンとこない。(医療・福祉)
- ◆ 私は感心や興味がない。問題があり、差別が存在している事は理解しているが、体感や体験がない為、自分事として考えられない。考えた事は無い。(会社員・団体職員)
- ◆ 人を差別することで優越感を得るために作られた古い部落差別についてこの現代社会においてもまだ差別を続けることはとても幼稚なことだと思います。ただそこに住んでいただけ生まれただけで不当な扱いをすることに理解に苦しみます。(アルバイト・パート)
- ◆ 教える必要がない。差別を教えるから子供はまねする。そもそも差別を知らなければ問題が起きない。(会社員・団体職員)
- ◆ 問題を風化させるべきか、させないべきか難しい。中途半端に後世に伝えると逆に差別を生む可能性もあると思う。(医療・福祉)
- ◆ 鳥取へ引っ越してきて、初めて同和地区というものがあることを知りました。同和地区については詳しく知りませんが、住んでいる人をどうとも思いませんが、子供のことなどを考えると、今後、わざわざそこに住もうとは思わないという感じです。(無回答)
- ◆ 子どもの頃(小学生)教わった。中学でも少し教わった。高校や社会人になってから触れたことはない。同和問題は親や祖父母世代の話で今の若い人はピンとこない昔の話という気がする。その分、親からきいた悪口をうのみにしてしまう若い人たちも出てきてしまうのかなという不安もある。(会社員・団体職員)
- ◆ 同和問題を風化させない事が、同和地区のプラス商材になっている感じがある(お金や権利)など。もし本当の平等を願うなら、一般の国民と同じ立場に来れば良い。(会社員・団体職員)
- ◆ よく知りませんが、差別はどんな人に対してもあってはならないと思うけど、全てうけ入れられるかどうかは私自身もよく分からないので難しい問題だと思う。(アルバイト・パート)
- ◆ 気にしてない事もあり何も感じない。(会社員・団体職員)
- ◆ 随分前の身分のせいで、なぜ未だにその土地自体が差別されなければいけないのか分からない。たまたまそこに生まれただけで、一体いつまで苦しまなければいけないのか、、、。身分制度自体、上の人間が勝手に決めて、嫌な仕事押し付けて、虐げられていたのに、その子孫までずーっと苦しめられるなんておかしすぎる、、、。それをおかしいとも思わず差別を続ける人は、何なんだろう。と憤りしか感じない。自分がその立場だったら？って小さい頃から私は色々な場面で大人に教わって

来ましたが、そういう経験ができなかったんでしょうか？（公務員）

- ◆ 小学生、中学生の時、授業で習った。実際、同和地区の友人もいたが、大人になった今は、同和問題が身近にはない。（医療・福祉）
- ◆ 近くで同和問題に直面した事がなく、感じる事がない。（家事専業）
- ◆ あまり関わる事のない問題だが、実際にその様な地域に住んでいる人達は今でも差別を受けていると感じることがあるのか気になる。住んでいる場所によって差別されることはよくないと思うが、過去の歴史というよりかは住んでいる人たちの態度や慣習によって差別が続いていることもあるのでは？と思う。激しく権利を主張したり、それによってお金が動いているということも聞いたりする。部落に大きな道や大きな家が多いのはその為であると聞いた。本当かどうかは分かり兼ねるが、もし本当ならば、疑問を感じる。（会社員・団体職員）
- ◆ 同和問題について小学校の授業で習った事をきっかけに差別の事を知ったが、知ることによって生じる差別の心もあるのかもしれない。私は友達はその地区にいたが、特に何も思わなかったが、年配の人とかは、まだ心に強く差別の気持ちが根付いている人もいると思う。（医療・福祉）
- ◆ 特に感じないので、なくなっているのが現状ではないか。（役員・自営業）
- ◆ 風化したように感じる事が SNS やインターネットでは部落差別に対する書き込みは続いている。生活の場など表面化していないだけで続いている現状があることに対して悲しい気持ちもあるが、悲しくもある。（無回答）
- ◆ くだらない問題だと思っている。初めて知ったのは小学校4年生くらいの道德の時間だったが、それまで何も知らず接していた友人が同和部落と知った。そのことで何も変わったりしなかったが、「ああそうなんだ」という意識を植え付けられた気がした。同じ頃、担当の先生も同和出身と知り、両親の反対を押し切って結婚されたと聞き、「可哀想だ。部落問題なんかくだらない」と感じた。あれから20年経ち、令和になったが考えは変わらない。いつまでも部落、同和と言っていてくだらないと感じている。（無職）
- ◆ 内容は周知しているが、実際差別されている方に出会った事がなく、あまり実感がない。（医療・福祉）
- ◆ 今の若い世代は同和問題についてあまりよく知らない人が多いと思う。同和地区出身だから結婚は許さない、付き合うのはやめた方がいいと頭ごなしに反対しているのは高齢の人が多くのではないかな。みんな同じ人間なので出身地等で差別されない世の中になってほしい。（教職員）
- ◆ 自身が同和地区出身なので、住んでいる当時は色々思うことがありました。小学校では出身の人が多い校区なので結構な数の授業を受け、歴史を知ったり発表会をしたり・・・でも私たち自身より、そうでない校区の人が知るべきことだと常に思っていました。学習力が低いわけでもないのに、その地区だというだけで進学率、就職率を上げるため「学習会」が週に一回あり、先生に勉強を教わったり、その当時は逆差別だと思っていました。（固定資産税の減免があったこともそうです。今はないので良かったです）自分は不当な扱いを受けることもなく、結婚も同和地区でない人としているので差別を受けたというより、逆に周りの人の意識を変えるべきであるし、学習会など、他の人より恩恵を受けるべきではない。すべて平等であるべきと思っています。（公務員）

- ◆ 学校で習わなければ知ることがなかったので、同和問題の授業がなくなったら部落差別がなくなっていくのではないかと思うことがある。(会社員・団体職員)
- ◆ どちらかというあまり気にしていない。(医療・福祉)
- ◆ 小学校の時に同和問題について授業を受けました。そこが地域のどこにあるか知らないし、家族やまわりの大人からも特にそういった言葉を聞いていないのであまり気になりません。友達や知人が同和地区出身でも気になりません。(医療・福祉)
- ◆ 同和問題が何かよく分からない。(会社員・団体職員)
- ◆ 若者ほど気にしない。(会社員・団体職員)
- ◆ 同和問題を最近耳にすることがないので、日ごろ感じることはない。(医療・福祉)
- ◆ 若い世代ではだいぶ差別意識は減っているように感じる。ただ年配者の方が意識が高く、その問題となる発言は多く聞かれる。(医療・福祉)
- ◆ この差別をしておられた方々は、私たちよりも年齢の上の方が多いと昔、学校で学びました。なので、その時「私たち世代にそれを教えて新たな差別の芽を生むこと自体、やめてほしい」と先生に言いました。「何も知らなければ、皆本革の製品はともいいもので高い値段でも欲しいものと思っている。その仕事に代々携わって来られた方々の住んでおられた地域を馬鹿にするなんて、意味の分からないこと」そのように話したところ、学校での同和教育はピタッと終わりました。理由もその話題も一切ないまま。私の住んでいた大阪の中学校でのことです。鳥取県もそのように早くなればいいのにな。まだこんな教育をしているのか・・・とびっくりしました。平和になるといいですね。(無回答)
- ◆ 高校生の時、とても熱心に同和問題について学ぶ学校に通っていましたが、サークル?のようなものに同級生が入っていて、同和問題についてよく話し合っていました。その中で、ある友達が差別的なことを言ってしまったようで、そのサークルの中から無視をされ、1人でお弁当を食べるようになりました。私はその時、正直怖いと思いました。差別をする人を差別する。行き過ぎた正義は悪になると思いました。言葉で上げ足を取ったり。人を責めたり、正義も寛容さが必要なのかなと思ったり、差別がダメなのは分かります。でも・・・何というか・・・。難しいですね。(教職員)

#### 40～49歳

- ◆ 知らないうちに差別をしているのかもしれないと時々考える。(公務員)
- ◆ 鳥取県は人口が少ない事もあり、知人が部落出身者である場合が多く、部落出身者より個人の性格により、好きな人がいれば私は友達付き合いをさせてもらっています。しかし、同対法などでハード面は集落もかなり整備されていますが、土建業を仕事としている人がいまだに多く、経済的弱者が多いのも現状です。又、その為に性格がすさんでいる人が多いのも事実です。そして知人の中には、差別的発言を受けた人もいることは事実です。しかし、私は過疎化と同じく集落というものも早く消滅し、都市に人口が集中していき、なくなってしまうと思います。そして集落がなくなった後は、部落差別については歴史として学習していけばいいと思います。(公務員)
- ◆ 小学校の時に部落差別について授業で学んだ。先生がすごく真剣だったのでよく覚えています。部

落差別などのご時世あってはならないと思っている。田舎の年配の方とかで部落の話をしているのを聞いてビックリしたことがある。昔からの考えがそのまま今も残っているのだと思う。(アルバイト・パート)

- ◆ 若い世代はほぼ気にしていない。自然になくなるのではないか。(会社員・団体職員)
- ◆ 部落差別はする意味が全くないので、する方が恥ずかしい。(アルバイト・パート)
- ◆ あまり気にしたことはありません。(役員・自営業)
- ◆ こうして設問を設ける事自体が悪い。私自身、小学生の頃の道徳の授業で学習したが、その程度で終わった。今は「同和地区」というワードを出す事のほうがおかしい。ありえない。とても不愉快です。時代錯誤も甚だしい。(無回答)
- ◆ 私は差別をする気は無いですが、同和地区出身の方が自ら「同和地区出身だから～してもらわないと～」みたいな事を言っておられた事がある。そのような行動が問題であると思う。逆に差別をするようにうながしているのではないかと感じる。(会社員・団体職員)
- ◆ 部落差別を知ることは大事だと思うが、小さい子供の頃から教育してまで教える必要はないと思う。差別してはならないといっても差別してしまう人はいると思うし、教える必要はないと思う。知らなければ差別はないと思う。(アルバイト・パート)
- ◆ まだそのような考えをもっている人がいるのかと思う。あれば残念。恋愛に関係ない。(教職員)
- ◆ 県内の一部の自治会やPTAでは半強制的に役員に選ばれ、同和教育に関わされたりします。同和地区の方々はいろいろと優遇されていることも多く保障も充実しています。押しつけのやり方では新たな意識格差が広がり差別を作りだすように思えます。地区によって過度な同和问题への取り組みや保障があり、その地域の方にとってはいつまでも差別はなくなるのではないのではと思います。人権は平等であるべきだと思うので誰か一人でも負担に思うやり方では解決にはほど遠いと思います。(医療・福祉)
- ◆ 今まで身近になかったので、あまり気にした事はありません。でももし自分が差別される地区にいて、不便を感じるなら引越しをするかもしれません。(家事専門)
- ◆ 同和问题は今では全く日常にない状態で生活していますが、このような調査に出てくるといことは今だに根強く残っているのでしょう。子供の頃、何度も学習してきたので、地区に対してのイメージがあまり良いものではなかったですが、しらなければ、しらないまま、悪いイメージをもつことなく生活できるのではと思ったりします。(会社員・団体職員)
- ◆ 私は小学校3年の時から同和教育を受けましたが、最初は意味が分かりませんでした。一緒に入学し共に学んでいた友達が「同和…地区?」「友達は差別される?」そして、今でもずっと友達として(親友として)過ごしている人は、同和地区ですが関係ありません。何ら変わらずのつき合いです。しかし、一定の年齢に達している身内や会社の上司は植えつけられた考えが、差別だという認識はなく、差別発言をしていますし、妹は同和地区の方と結婚しましたが、身内の影での差別発言や母が他社との会話で話をしている内容に辛くなってしまいました。田舎ほどそれが濃厚なので、市内の友達が「同和」という言葉を知らないことが逆に驚きでした!!差別をしているのは一定年齢以上の人だと思うので、その言葉も近い将来、消滅すると思っています。私からすると古い考え

だという認識しかありません。(医療・福祉)

- ◆ 学校で同和問題を学びました。学ぶことは大切な事だと思ふ気持ちと…学ぶから、知ってしまい差別する人もいるのではないかと思ふ気持ちもある。複雑な気持ちで学んでいたのを覚えています。  
(子供は権に軽はずみに人を傷つけてしまいます。学校で学ぶから、陰で「あの子は同和地区の子が」とか話している人を覚えています。言われた子は泣いていたのを 30 年以上たった今まで覚えています。その子の気持ちは「そっとしておいてほしかった…」そう言って泣いていたのを覚えています。(アルバイト・パート)
- ◆ どうして、何十年も同和問題の勉強を平等に習っているのに差別がなくなるのか不思議です。どうして、強くても弱くても小さくても大きくても、理解力に差があってもなくても見た目がどうであれ同じ人間で。相手を自分より下だと思ふことすべてが自分を強く見せようとする。自分の問題だと気がつかないのでしょうか。すべての人が違うのに同じ教育、同じ学校におしこめていることが上、下を生み、くらべる日常を作り、人より上でいたいという差別を生んでいるのかもしれない。それぞれが違っていてもよいという世の中がきますように。(役員・自営業)
- ◆ 同和問題に関しては間違った知識を入れないようにと、学校での授業等で聞くことが多いと思うが、授業できかなければ、知らずに済むこともある。(会社員・団体職員)
- ◆ 私が 15 歳の頃、被差別部落の女の子と話す時があった。町の花形の職業には就けない。引っ越しても別の被差別部落しか引っ越せないから意味がない。被差別集落でない人はいじめ、追い出す。私が後日、ふるさとに帰る途中、仕事をする人を見た。そして、(私の障がいのせいの勘違いか知れないが) 一生懸命、働いている女の子を見た。そして、考えさせられた。世の中の人あまり相手のしない職業を必死でやり遂げて、充実した顔をしている女の子を…。考えさせられた。一生懸命やっている女の子は、幸せを掴みたくてもバリアがある。たくさんそして障がいを持った私以上に苦しいバリアを乗り越えてきたんだと。また、考えさせられた。頑張っている女の子に迷惑を私の作文でかけたくないので、そっとしておいてください。私の障がいが白い目で見られる現実と…。(その他)
- ◆ 同和地区だから優遇する事が差別だと思ふ。(アルバイト・パート)
- ◆ 現在も小中学校でどのような教育が行われているのか分からないし、参考として知りたい。※今昔の違いや教育の有無など。(公務員)
- ◆ 問題をタブー視する傾向があるように思ふ。身分制度のもう 1 つの問題の天皇制に対する問題意識が低い。世襲制が問題視されず、世間も容認しているように感じる。(会社員・団体職員)
- ◆ PTA 活動により同和部落へ学習をすることがありましたが、根が深く、未だにそんなことを言っている人がいたり、されたりする事があるのだと感じましたが、地域の方も異常に騒ぎすぎではないかと言うことも感じたが、なかなかその場では言い辛い事であった。(会社員・団体職員)
- ◆ 令和の世に部落差別の意識がある人が存在するというのが信じられない。(会社員・団体職員)
- ◆ 学校で習って以来、実生活で同和問題に触れる機会はありませんでした。日本には同和問題という差別があるということをこのアンケートで久しぶりに思い出しました。学校で中途半端に教えたり、このようなアンケートで思い出したようにすることがこの問題をぶり返し、長期に渡りだらだら継



続され、この問題が消滅せずいつまでも残っている原因の一つだと思います。このことに仕事として携わっている行政の方々には本気で終わらせる気はなく、このようなアンケートをとり集計することで仕事をした気になっているのではないですか？（会社員・団体職員）

- ◆ 同和問題（部落差別）を手段にする事に違和感を覚える。同和問題でなく人権問題で良いのでは？（会社員・団体職員）
- ◆ 親から聞いたが、自分たちの主張が強い傾向がある。車の免許が無料だったりすると聞いた。差別してほしくなければ一般の人と同じ生活をすべきだと思う。（医療・福祉）
- ◆ 知らない子供たちに教える必要はない。（無職）
- ◆ 恥ずかしながら同和問題について全く知りません。自分の身近な問題としてとらえていません。このためうすっぺらいですが、差別は絶対ダメです。（会社員・団体職員）
- ◆ 私は小学校で学びました。その時からずっと部落差別の授業をすることは間違っていると思いました。今の子は学んでいないので知りません。知らない方がいいのです。同和部落には何かしら支援があると聞いています。そういうことをするのは余計差別の目が増すと思います。何もしないのが一番だと思います。同和問題を学んでいる人はその地域に住むことはないだろうし、友達はいても。結婚したりはしないでしょう。学ばないのが一番良いと思います。同じ人間ですが、やはり学習している者からしてみれば違った目で見えてしまいます。申し訳ないですが。（医療・福祉）
- ◆ 同和地区に住んでいる方から直接聞きました。同和地区に住んでいるため仕事がないと言えば、車の免許も無料、大型自動車免許も無料になるということで、わざと同和地区に住所を移し（転居）、免許を無料で取得したと言っていた方がいました。保育料も無料になると言われていました。私は同和地区に住んでいる方たちは自分たちから差別をしてもらっていると思います。車の免許も子供の保育料も頑張って働き本当に頑張って子供を成長させ、頑張れば頑張る程、税金は沢山引かれ、それが理不尽な考えの同和地区に人の為に使われると思うと納得いきません。平等にするべきだと思います。（会社員・団体職員）
- ◆ 部落差別をしている、意識しているのは子供より大人（特に年配の方）だと感じる。（会社員・団体職員）
- ◆ 同和地区ということを盾にしてくる。（役員をお願いしに行っても「嫌なことを押し付けてくる」と言われたりする。順番に回っているだけなのに）（会社員・団体職員）
- ◆ 部落差別という言葉は小学校で習ったので記憶にあるが、現状どんな感じか全く知りません。その地域に住んでいるだけで、その人がどんな人か知らないし、知らずに普段接しているかもしれないし、私はあまり気にしません。もし、部落差別で職場等で不当な扱いをされているなら、それはあってはダメなことです。（無回答）
- ◆ 学校で教育を充実すれば時間がかかっても良くなるのでないかと思う。（専門職・自由業）
- ◆ 同和地区に優遇しているうちは、差別はなくならない。特別視されたくなければ特別な対応はしない方が良い。（医療・福祉）
- ◆ 表にはあまり出てこないが突然どこからともなく話が出てくるので、いつまでたってもなくならない。（会社員・団体職員）

- ◆ 住んでいる場所を他人に知らせると、あの辺はそういう人が住んでいる辺りだよ、等と言われることもある。あの地域はがらが悪い等。(教職員)
- ◆ 同和地区に活用している補助金なども発表するべきだと思います。(その他)
- ◆ 日常生活で関わりなく、特になし。(会社員・団体職員)

#### 50～59歳

- ◆ 学校の授業等で同和問題について継続的にやっていかないといけない。差別しているのは高齢者が多いでは。(会社員・団体職員)
- ◆ 最近、学校の人権学習で同和問題について題材に取り上げ、学習することが少なくなったように思います。様々な人権学習の中の差別事象の1つというとならなくなってきているのかなと思います。以前は人権学習というとならすぐ同和問題だったので、今の方が子供にとっても学習しやすいのかなと思います。(家事専業)
- ◆ 我が国における歴史的、社会的な課題であり、未だに解決できていない。人権問題の中でも日本独特のものであり、解決に向けて科学的な見知から糸口を見出して欲しい。他人事として他の人権問題の一つとして位置づけられ、以前より弱くなったような感じがする。経済的に豊かになったとしても人権問題だからいわゆる「お金」ではないと思う。世の中の人々が人を差別する意識の問題だと思うから、世の中を学ぶことだと思う。時代が変わっても差別は許されることではない。そのことを物語る我が国の歴史の一つであると考えて。なぜ、差別するのか？老若男女全てが差別者となる。なぜだろう？それが「生」なのか。ですから、「生と死」をどう考えるのか。「戦争と平和」をどう捉えるのか。「幸せ」とは何か？「不幸」とは何か？(教職員)
- ◆ その人たちの性格等、いろいろな人たちがいると思うので一概には言えないと思いますが、自分は特に差別などしないし、してはならないと思います。(その他)
- ◆ 逆差別、同和問題を利用して有利な条件を得る人がいる。(役員・自営業)
- ◆ 土農工商の時代に有力者の為に作られた、誤った制度。いっそ社会主義にすべきだ。腐った人間は存在する。但し、それは生まれた場所とは関係ない。むしろ、日常の中にそれは存在する。(会社員・団体職員)
- ◆ 同和地区の事について、中学校で学びました。同和地区に移住することにより優遇されていることに不満を持つ方がおられるように思います。また地区を出てそれが嫌で頑張っておられる方もあり、難しい問題があると思います。よく聞く話ですが、教育関係者の方がうわべでは良くないと言いながら、自分の関係の方が結婚する時に身元調査とかしたという話を聞いたことがあります。(会社員・団体職員)
- ◆ 年配の人ほどその思いが強いように感じます。自分が学習したことを伝えても「自分たちの育った環境からはいくら”それがだめだ”と言われてももう変えようがない」と言われます。このことに対する何かいい対策があればいいと思います。(会社員・団体職員)
- ◆ 20代のころ(30年ほど前)親よりそういう部落のあることを初めて聞きました。しかし、その部落の人が何か悪い事をしたわけでもなく、迫害されていることが理解できませんでした。彼らは差

別されるようなことは何もしていないのだから。まして現在は人は動き、出て行った人、入っていった人、昔からの血を繋いでいる人はほとんどいないんじゃないですか。その土地にいるというだけで差別することもよくわかりません。もっと学校とかで歴史とかをたくさん勉強するべきだと思います。(会社員・団体職員)

- ◆ いけないことだとは理解しているが、行動ができていますかといえど？です。(会社員・団体職員)
- ◆ 学校の授業から同和問題はなくすべきだと思う。教えなければわからない。自然消滅になる。(家事専業)
- ◆ 高齢者の中には同和地区を気にする人がいるかもしれないが、年齢が若くなるにつれて全く気にしない人が増えているのではないかと思う。(医療・福祉)
- ◆ 最近企業内での同和教育が減少し、ハラスメント、コンプライアンス中心に移行している。ハラスメント防止教育も大切であるが、日本の歴史的問題でもある同和问题教育は継続する必要があると思う。(会社員・団体職員)
- ◆ 中学校など教師が特別に部落地区に行って学習の補習を行うのは不思議だ。(公務員)
- ◆ よくわからない。でもなくなる。(アルバイト・パート)
- ◆ 同和(部落差別)を知らない世代なので知らなくてもいいかと思います。無理に講演や研修会する必要もないと思います。部落差別より今現在起こっている差別について勉強する必要があると思います。(医療・福祉)
- ◆ 役所に就職する際の同和枠もなくすべき。地域によっては、同和地区のみ二重窓取付が前面補助出る所もある。差別も逆差別もなくすべき。(会社員・団体職員)
- ◆ 若い人はそうでないが年配の人は差別経験があるようで口が悪い。(家事専業)
- ◆ 最近は差別が表面的にはなくなっているが、人の心の部分として、どう捉えられているのか、わからない。(無職)
- ◆ 私の親の年代は教育を受けてきていない(人権教育(同和教育))日々の会話の中で差別的言動が時々あるが、いくら説明しても、まだ次の時、同じ言動をする。いかに根強く心の中に残っているかがうかがえる。正しい知識を小さな時から教えていくこと(教育していくこと)はとても大切なことだと思う。(無職)
- ◆ まだまだ同和问题について分からないことが多い。社会全体が取り上げていないと思う。もっとわかりやすく国や県・市町村・マスコミ等がとりあげるべきだ。(無職)
- ◆ 差別することが分かりません。人は皆平等と思っています。差別がなくなれば良いと思います。(会社員・団体職員)
- ◆ 部落差別は見えにくくなっているが、結婚 etc などで反対を聞くことがある。ただ、問題解決には部落の人の理解も必要と感じている。(役員・自営業)
- ◆ 私は人を差別することはきらい。広い心で寛容の精神、心が 考えが大切だと思う。(会社員・団体職員)
- ◆ 学校での人権教育は大切だと思います。(会社員・団体職員)
- ◆ 同じ人間で部落差別をすることになってしまったことが理解できません。その地区に生まれてしま

った人は何も悪くないのに差別されたり、結婚できないことが残念です。(家事専業)

- ◆ 客観的差別は悪いことであると理解はしているものの、実際に自分の身に、または周辺でそのような関係が生じたときに、冷静に判断できるか、その時にならないと分からない。(会社員・団体職員)
- ◆ 新興住宅に住んでおり、現在身近に同和問題について感じていることはありませんが、子供から質問を受けた時には、生まれ育ったとなり部落がそうであり、友人から聞いた話や 20 代アパートを格安で借りることができたのは、いわゆる部落だからと後になって知ったことなど話してやりたいと思います。(アルバイト・パート)
- ◆ 歴史的なことをもっとマスコミを使用して知って欲しい。いつまでもタブーであってはならないと思う。(アルバイト・パート)
- ◆ 私の子ども（息子、娘）が小学生の時、クラスの同和教育部の役を何回かやっており（誰もやりたがらない、無関心）、同和部落の人たちとの現地学習会に参加したことがあります。私自身は同和の人に対して差別的なことをしていないが、私の親世代、又はその年齢に近い人などは同和の人に対して差別的な発言などされることを聞けば、まだまだ同和問題はなかなか難しいのかなあと感じてしまいます。同和問題には関係のないことですが、自分の息子が小学生の時、クラスでいじめられていることを知らず息子の同級生の父兄から知らされ、息子に聞いたらいじめられているということを知り、担任の先生に話したところ、いじめられる側が悪いと先生に言われて何とも言えないくらい腹が立ち、クラスで話し合ってくださいと言ったら、後で担任の先生が謝ってこられました。その時、いじめられる側が悪いとは何を考えてそういう発言を先生がされたのか理解できませんでした。(会社員・団体職員)
- ◆ 差別のない社会にしてほしい。(アルバイト・パート)
- ◆ そもそも基本的人権とは何かを理解できていないことが差別を生むので、そのことから教育をすべき。(会社員・団体職員)
- ◆ 私の周りで自分は部落出身だと言って高圧的な態度をとる方が見受けられます。自分に不利益が生じたとき、卑怯だと大声で騒ぐことがある。しかし、周囲のものはその人の身元は知らないのでは物に触るような扱いをしています。(会社員・団体職員)
- ◆ 昔みたいに差別は少なくなっていると思うけど、国自体差別していると思う。同和地区の人と同等だと思わないことがあります。(会社員・団体職員)
- ◆ 私自身は昔の話で今時そんな話をするのは考えが古いと思う。ただ、まだそういった差別があるのも事実で差別されている方はつらいと思う。なぜ部落などが出来たのかなど、よくわかっていない人が多いと思うので、長期戦にはなると思うが少しずつ説明をして、差別している方にわかってもらうしかない。(無職)
- ◆ 友人の娘さんが被差別部落に嫁ぎました。今もその部落には色々な集会有り、誘われるそうですが、娘さん曰く「たまたま被差別部落の人を好きになり、嫁いだけなのに、その集会や行事参加を促されることにより特別な（嫌な）思いがする。子供も小さく、手がかかるのになぜ普通に暮らせないの？ということ。私も年代が変わるごとにだんだん気にしなくなってきているように思

います。実際、私の娘も大して気にしていません。(会社員・団体職員)

60～69歳

- ◆ 差別を利用して利益を得ている人々、団体がいる限り、この問題は無くならないと思う！！(役員・自営業)
- ◆ 一部の議員が活動報告といって被差別部落の人や地域を広報で差別的な文書を書いている。鳥取県の人権局人権同和対策課では、このような事例を知っていても何もしてくれないのではないかと日頃、不信感でいっぱいです。隣保館は必要ないとか、相談員は必要ないとか部落差別がある現状を知らないからだと思います。(家事専業)
- ◆ 以前と比べると部落差別は少なくなったように感じる。娘は学校で学習したそうで、差別のない心があり感心することがある。若い人はそうなんだと思います。(医療・福祉)
- ◆ 同和問題は難しい問題です。すぐには解決できなくても、時間をかけて取り組めば絶対に解決するでしょう。そして解決しなくてはいけない問題です。私の妹は実際に部落の出身の方と結婚しました。種々、悩みがあるようですが具体的には申しません。ただ、両親も兄も大反対でしたので、同和地区に家を建てることなど反対で、未だに借家住まいです。妹としては夫の住んでいた土地に家を建てたいようですが、今の状態では難しいです。(教職員)
- ◆ 実際に、そういう人から被害を受けたことがある(傷害事件)。又、知り合いの人が逆恨みをされて大変な目にあっている。ある人はそれが元で亡くなった。(会社員・団体職員)
- ◆ その地区で生まれたということだけで差別を受けるのはおかしいと思う。その人自身と付き合ってきちんと判断していくべきものだと思う。(医療・福祉)
- ◆ 同和問題を一般的、人権として扱うことに少し疑問を感じる。(公務員)
- ◆ 同和という言葉が部落差別にすぐ結びつくこと自体が違和感だと思う。人種や居住地が異なっても同じ人間であり、差別は許せない。これまでの教育がどうだったのか、なぜこのような差別が出来るのか、人間とは何かを哲学教育が必要だと思います。(会社員・団体職員)
- ◆ 人々が生活する中で皆が助け、理解しなくてははいけない。同和地区に限らず、障がい者、高齢者等(外国人を含む)皆が住みよい日々を過ごせるよう、様々な知識を得ることが大切である。特に、同和問題は長い歴史の中で今も苦勞されている人々が沢山いると思いますが、私たちに出来る手助けや協力は進んですべきだと思う。(無職)
- ◆ 同和問題については会社での研修会を年2回行っていたが、現在は退職し、あまり考えなくなった。(無職)
- ◆ 同和問題は現在でも実際に残っているのは学校教育で教えるからいつまでもなくなる。(会社員・団体職員)
- ◆ 差別する風潮には抵抗があり無くすべきと考えるが、自分がそこに身を置いたり、関わっていく事までは出来ない。(無職)
- ◆ 同和地区を無くしたら。(無職)
- ◆ ひな鳥に見られる刷り込み効果のように、幼少期に囲りの大人が差別的な発言や行動によって、認

知してしまっているのが大半と思う。なので間違った認識を正す事と学習による気付きは大事だと思う。人が人を差別、区別する感情は、恐れでもあり、いつか自分にも向けられるのではという防衛反応とも思える。生まれた地域や見た目（肌の色）で差別、区別するのでは無く、好きか嫌いの判断で対人関係を作ると楽になると思う。（家事専業）

- ◆ 知らなくても良いのにこういうアンケートとかで知らされることすら話題にしなくても良いのでは。知らない人が知ることによって差別が生まれると思う。知らなければ普通に生活するのだと思う。特に同和問題。（会社員・団体職員）
- ◆ 長い年月をかけて形成され引き継がれていることなので、一朝一夕に解決できる問題ではないと思う。少しずつ近く接し、ゆっくりとコミュニケーション取りながら寄り添って交流していくべきだし被差別部落の方たちもそれを意識して自分をみがき、成長しながら相手に接して行って欲しいと思う。そうすることによって少しずつ和んでいくのではないかと思う。（家事専業）
- ◆ もうそろそろ同和問題の研修などは止めてもいいと思う。理由は形骸化してきたため、身近な問題と思わない。このままでも自然に同和問題は時代が変わる。世代が変わると消滅する。俺達はずっと前から同和の人とは普通の人（被差別部落ではない）と全く同じ扱いをしている。（農林漁業者）
- ◆ 難しい問題。時間が必要。（無職）
- ◆ 家を建てるのに優遇されている法律が現在も生きてると聞いたが、本当なのだろうか。職業等での差別化はなくなったと思われるが、現在でも必要なのだろうか。逆差別にならないように願う。（医療・福祉）
- ◆ 同和問題はだんだん見えにくくなっていると思う。「知らないから関係ない」ではなくて、知ってからどう行動するかが大事だと思う。本来なら、どこの地区に生まれようと関係ないはずなのに、そこに生まれたがために心を痛めている人への思いに少しでも気づくべきだと思う。人を思いやるとは、どういう行動かをこれからも考えていきたいと思う。（農林漁業者）
- ◆ 同和地区をというより、人柄だと思っています。（医療・福祉）
- ◆ やはりまだ部落差別がなくなっていない。（農林漁業者）
- ◆ 同和問題（差別）について、行政、立法、司法、全般に於いて当事者たちに根深く偏見が現実存在している以上、我が国では決して問題は解決しない。差別とは？不条理なものとして、全ての人の意識の中に存在し、無意識に差別することを求めている。未来永劫にあらゆる差別は存在し、人との社会生活の中で必要悪として位置づけられている。根本問題としてとらえられているものとして、我々は受け入れなければならないと思う。但し、行政が”同和問題”などとして差別をことさらに埃起する以前に行政にたずさわる人々が差別の根本（7火）を知って、己に問いかけるべきではないかと思う。（会社員・団体職員）
- ◆ 同和問題は被差別者の問題ではなく、差別する側の問題であることをもっと自覚すべきだ。（無職）
- ◆ 人の都合によって作り出された制度であることを理解すれば問題にならずグローバルになれば風化していくと思う。（アルバイト・パート）
- ◆ 同和問題について歴史や現状について講演を受講し、考え方、生き方について大変勉強になった。（医療・福祉）

- ◆ 逆差別。(会社員・団体職員)
- ◆ 歴史の中で作られた身分制度で、差別する人は自分が優位に立ちたい理由付けにしていると思う。  
(教職員)
- ◆ 部落に対して特別あつかいは逆によくはないと思う。部落の子を支持するなど聞いたことがありますか。これもわからない情報かもしれませんね。研修会等あれば参加したいと思います。(会社員・団体職員)
- ◆ 幼少の頃から教育。差別世代の減少(我々の年代は同和教育はなく教師も堂々と差別していた。)  
(農林漁業者)
- ◆ 千年経っても無くならないでしょう。(役員・自営業)
- ◆ 同和差別話をする人など鼻で笑っている。もっと考えなければいけないことが社会にはたくさんある。人を思う心と何か成す心は大切な考えです。(会社員・団体職員)
- ◆ 若い人達は学校等で教育を受けているので、差別はないものと考えています。50歳以上の人たちの中で差別の意識が高いと思います。今後、結婚や社会の中で、ともに働くことにより、段々と無くなって来る様に思います。(医療・福祉)
- ◆ 同和問題も長い歴史を経てきている。被差別部落という言葉もあまり聞かなくなってきた、私たちより若い世代の人たちはあまり差別という意識は薄れていると思う。この同和教育はずっと続けていかなければならないのか？わざわざ意識させる必要があるのでしょうか？(会社員・団体職員)
- ◆ 同和問題だけ特に取り上げるのではなく、日常の社会的差別を含む不平等な現実を目に向けていくことが必要だが、幼少時からの教育や社会人となるまでの研修が公的機関として正しく行われるよう意識して見守る広い視野を持てる人材の育成が必要と思われる。差別をしていた人がそれを正しくなくことだと認識し、差別解消へ取り組んでいる事例を研修やメディアを通して見せるかすることが大切。ネットによる差別も多くなる中で人権について学ぶことのできる学習の基本が同和問題には含有されていると認識される。(無回答)
- ◆ 差別事象は、あつてはならないことだと思いますが、あつた場合は、公表し、みんな考えたり、話し合っていくことが大切だと思います。(無職)
- ◆ 50～60年前に比べると、現代は生活水準のちがいが感じられなくなっている。特に建物(家)の雰囲気はどこも違和感なく外観ではわからない。だから、かえって就職や結婚のときに身元調査する人がいるのではないかと思う。昔は言葉もすこしちがっていたと主人は言います。30年前は差別という同和地区のことが主でしたが、今ではほかの人権について、様々出てきています。家庭でまずしっかりと話をして地域・学校とも交りあつて片寄つた認識を次世代の子供たちに与えないようにしたいと思います。(アルバイト・パート)
- ◆ 保育園入園から高校卒業するまでの期間は同和問題にふれる機会がありますが、それ以上の年齢になると地域での漠然とした講演・座談会のみで内容がよくわからなくなりやすい。最終的には結婚問題で、今まで学んだことが生かされやすいのかどうか疑問です。(役員・自営業)
- ◆ 主として新聞・テレビ等のメディアで取り上げられることが少ない。何かしらの事件・事故が起きないと報道されないように思う。最近の朝鮮・朝鮮人差別問題の歴史がそれなりに長いのに、眼前

の事実を少しなぞるだけに終わってしまっているように、同和問題はさらに長い歴史があるにもかかわらず、一時のブームの様になってしまっているのではないかと危惧をします。(※一時のブーム＝「橋のない川」などの小説・映画など) (無職)

- ◆ 日頃考えたことがない。(農林漁業者)
- ◆ 差別は日本社会が変わらなければ無くならない。日本社会は個人で構成されているので、個人が変わらなければ差別が許される。部落差別はこうして温存されてきたもの。許される差別という観念がある限り、たてまえの社会が出来てしまう。真に人権を守るといふなら、ここにメスを入れないとこれまでもそしてこれからも解決はしない。(農林漁業者)
- ◆ 同和問題をあまり表に出す事はないと思います。(家事専業)
- ◆ 昭和世代は部落差別を認識している人がほとんどだと思う。ただ大人になって部落を意識する生活はなくなったように思う。(無職)
- ◆ 差別される立場(部落差別・障がい者差別等)のある人でも状況が変われば、立場が変わる(差別する立場にある)(家事専業)
- ◆ 実際に接したことがないので分かりません。過去に聞いた話では〇〇〇が〇〇〇と結婚しなかったのは部落民だったから・・・ということくらいでそういうものがあると初めて知りました。その後、周辺にそのような人もいないし、存在すら把握してません。肉(動物をさばく)屋(汚い職として)主にそういう部落民にさせていて営業していることを過去の情報として聞いています。(無職)
- ◆ この問題は永久になくならない。同和、人権は永久になくならない。(アルバイト・パート)
- ◆ 自分は誰にでも差別なく普通に接することが出来ると頭では思っている、いざ直接身近に関わることがあればどうだろう・・・。相手に対する受入の気持ちより、周りの目が気になり、自分や家族を守ろうと距離を置こうとするかもしれない。私よりかなり若い教養あるお母さんが、その場にいらないお母さんの事「あの同和地区だから～」と軽んじた言葉を口にされるのを見て、エッ！今時そんなことを・・・とは思いますが、相手との気持ちのずれを言い、摩擦を起こしたくないので、「ふーん、へー」と同調まではせず、聞き逃しやり過ぎす感じでした。差別的な言動を自分からしないようにしたい。(家事専業)
- ◆ 両親が80代で未だにいじめられたことを話します。私自身も同和地区小学校に転校した際にいじめをされたり、言葉でいじめられました。今もはっきり覚えています。(会社員・団体職員)
- ◆ 今は67歳ですが、私の若かった頃より今は同和問題はあまり聞かなくなったと思います。(会社員・団体職員)
- ◆ 日頃に関心がない。より具体的な事例も公表してほしい、できる範囲で！(役員・自営業)
- ◆ 若いころ(45年以上前)部落問題に関わったことがある。学習会などにも参加し、狭山事件の石川氏の裁判で東京までデモに行ったりもした。ただ、日常生活の中では部落(問題)との接点はなく、観念的な認識と体験的な認識のギャップをすごく感じた。それは今も変わっていない。部落問題にかぎらず、差別は自分のうちにあるもので、自分自身でもわかっているものだと思う。社会が正面を向いて対応することが重要と思う。(無職)
- ◆ 私は赤ちゃんの時から部落から差別を受けていました。母が言うのには私を寝かして置いたら大き



な石が飛んできたと言って話をしてくれました。周りが皆、どこの家も大富豪で、私の家が貧乏であったため、そして宗教の違いもあったために、毎日嫌がらせが続いたそうです。同和地区ではなかったのですがそういう経験をしています。関係ないことを書いてしまい申し訳ありません。(無職)

- ◆ 人は出生など自分で選ぶことはできません。人の価値など出生と何の関係もありません。出生地で差別されることなどあってはならないことと思います。(農林漁業者)
- ◆ 現在の住所には3年半前に引っ越してきましたが、最初は地域の事がわからなかったので親や地区の人が部落の人の悪口を言っているのをよく聞かされました。その地区に住んでいるというだけで、その人の人格や見下した考えを決めつけて言うのは、聞いていてとても気分が悪かったです。私自身、持病もあつたりしますので相手の気持ちを考えたり、思いやりは大切にしたいと思います。(家事専業)
- ◆ 差別をすればいずれ自分も同じ体験をすることになると思う。(会社員・団体職員)
- ◆ 小中学校区に同和部落があつた。関係なく遊んでいた。親も何も言わなかった。問13、14は自分の年齢を考えると現実感がない。(無職)
- ◆ 私は貧乏な平民の家で育ちましたが、親兄弟からは「シンヘイ」(新平民)とは絶対に関わるなど言われていました。「何でだ?」と聞くと家族は的確な答えは出さず、「いけん」もんは「いけん」だと手痛く叱られたことを鮮明に覚えています。中学・高校・大学と成長するに伴い、何となく「新平民」とはどんなものか理解できるようになりました。確かに言葉の端々に独特の喋り方をするのを感じましたが、体質的に指が1本ないとか脳みそが少ないとかいうことは全くなく、運動も勉強も普通でした。差別・被差別の方は比較的高齢層が多数と思われます。今更この方々に教育を試してみても無駄で消極的ですが、世代交代を待つしかなく、それ程、根の深いもんだと考えます。(無職)
- ◆ 同和問題をクローズアップするのではなく、人権問題全般として教育啓発に向けた活動が良いのではないかと思う。(会社員・団体職員)
- ◆ 中学生の時(50年くらい前)に初めて同和問題について学習しました。それから本格的にいろいろ学んだのは子供が小学生になって以降、いろいろな機会があり、学習会などにも度々参加させてもらいました。子供と共に成長できたと思える本当にいい経験だったと改めて思います。今はあまり積極的に出かけていくことがなくなったなと思っています。子供と関わりながら学習できることはとってもいいことだと改めて思います。(医療・福祉)
- ◆ 今は皆同じ様に一緒だから結婚に対しても就職にしても、本人が良かったら良いと思います。(無職)
- ◆ 逆差別を感じる(相手方から)。(アルバイト・パート)
- ◆ あまり身近に問題を感じていないので、忘れがちでした。根強く残っている差別問題は子供達と話し合いながら無くしていく方向に努力していくのが大人の責任です。(農林漁業者)

70～79歳

- ◆ 同和地区の一部の人の中に、同和地区という理由で特権意識を持って行動をする人があり、逆差別を感じることもある。(農林漁業者)
- ◆ 職場にて研修があり、騒ぎ立ててそれに乗かって得する人が居るかも。又、騒ぎ立てなければ自然と差別など消滅してゆくのではとか、逆差別という言葉も聞いたことがあり、何らかの差別は無くなることはないなど、様々な意見がなされました。出来るならば差別のない世界であってほしいと願うものであります。(無職)
- ◆ 私の知人の同和地区の人達は、すごく素敵な人ばかりなので、知り合っただけでよかったと思っている。(家事専業)
- ◆ 子供のころに聞いた部落差別をいつまでも教育することが正しいのだろうか？もう普通に暮らせないものなのでしょうか？教育(部落差別)のあることで広めているのではないだろうか？差別を受けられた方には大変気の毒と思いますが、何とか普通に暮らして欲しいと思います。(無職)
- ◆ 歴史的に偽政者、権利者に作りだされた産物であり、行政責任で絶滅せねばならない。教育・啓発とかでは意識下から同和差別は無くならないと思うから、世の中からその存在をなくさないで解消しない。個人的には相手の意識から同和差別と忌まわしいものを時間をかけて無くし、忘れ去るしかないと思うので、それまで言葉でも行動でも禁止する。(農林漁業者)
- ◆ 若いころは耳にしたことがあったが今は聞かない。(無職)
- ◆ 同和問題の研修会(学習会)が各地区で毎年実施されますが、何十年も前からずっと同じパターンの研修で飽き飽きしている。(無職)
- ◆ 友人(同和の人)と話をしている時、話の内容によって考えて話をしてしまう。やっぱり気にしている自分がある。(家事専業)
- ◆ 昔の同和地区は衛生とか治安の住環境が悪く地区を通り抜けるのも怖い思いでした(同校区で学校帰り)。学校にも行かなかつたりで教育を受けないままなので、読み書きができず、その為仕事も限られていました。しかし、同和地区推進援助のもと、住宅建築や道路もきちんとされ、今はサークル活動や勉強会、講習なども活気があるそうです。但し、地元民だけで団結すると言葉や常識で差別されやすいので移住などで他との交流を持つことも必要な努力かと思います。(家事専業)
- ◆ 同和問題として新聞等で見た事はあるが実際にかかわった経験がなく良く分からない。(無職)
- ◆ 学校を卒業するまで郡部で育ちました。父母等から、あそこの人達は(指を折って)だからあまり話をしたり遊ばない様になどと言われてた事があり、「なんで？どうして？」を小学校の頃ふしぎに思いたらもう遠慮して今から思うと、あの様な行動していた自分が恥ずかしいです。中学、高校とその後と仲良くなり(勉強などで)結婚してからも、時々ですが会って話したりする様になりました。今、現在、まだ人権、同和問題と研修会等がありますが、私達皆が、心を開いて受け入れられる様に早くなりたいです。(失礼致しました)(無職)
- ◆ 人権問題に同和問題がとりあげられて何十年もたつが達成点をどこに置くかがよくわからない。新しく取り組む事も出てきていると思う。税と公務員数にも限りがあるのでやることはやったといってもよい年数ではないだろうか。同和利権なるものがあると聞いたことがある。こういう事は正しい税金の使用のために廃止していくことが大切と思う。(無職)

- ◆ 特措法が無くなって、部落解放運動が弱体化している。一般的な人権運動も極めて重要ではあるが、根幹には部落解放運動があり、いじめ、引きこもり、等のキッカケ。一番早期に見抜く力は同和教育に学ぶ事が必要だ。今日 A 君が休んだ。何故？と疑問を持ち、その理由を見つける為に家庭と連絡をとり、親友や友達に前日やそれ以前の様子を把握して、休んだ原因を探り、解決案を皆が考える。これが同和教育だ。現在この取り組みがないからいじめも引きこもりも早期発見ができていない。差別を見抜く目を育てる事が人権教育の根幹となると考える。(無職)
- ◆ 1. 人推協の集会に参加する事が有ります。決まって同和の不利、気の毒さが表現されます。「苦勞、苦心、辛さを耐えて人生を紡いでいるのは」同和の方ばかりでは有りません。集会そのものは必要ですが、判で押した様な同和話しは必要ない時代になっているのではありませんか。2. 同和の過去はもう過去の話ではないかと考えます。同和地区の民家の大きさ立派さは生活の表れと思います。租税関連減免等優遇措置も続いています。同和ゆえの差別を語るより、同和ゆえの措置にも感謝をすべきではないでしょうか。3. 差別は世の中にたくさんあります。走る事が速い人、遅い人、勉強の出来る人そうでない人、美しい人、そうでない人。世間で言う良い会社に勤務している人、地位の高い人。指を折ったらきりがありません。4. この環境を乗り切れる人間教育を検討指導を願いたいものです。(専門職・自由業)
- ◆ 私自身は同和同和と世間は言いますが、人間は皆平等で生まれており人間同士の中でこんな壁を作る世の中を変えて、日本の文化又、人間として大事な教育を伸ばして、公的な援助を伸ばしてほしいです。日本の国からすばらしい人が生れる事を期待しています。(農林漁業者)
- ◆ 同級生に何人も同和の友がいますが、何一つ違うことはなし。差別はあってはならないと思います。(無職)
- ◆ 部落差別というけど、逆に優遇されていることもあると思う。(アルバイト・パート)
- ◆ 現在、外国人との結婚も多くなってきているので、同和問題など特別扱いしなければ差別はなくなってくると思います。(無職)
- ◆ その方自身の考え方や行動で友人になれるかどうかである。(家事専業)
- ◆ 職場で年2回同和教育を受けた。根気よく教育を受けることが必要である。教育を受けることによって同和問題が日常生活にごく普通の事として溶け込むと思う。(無職)
- ◆ 仕事の関係もあり、長年同和教育、啓発活動に取り組みました。差別(部落差別)が全くなくなったかと問われると肯定できない部分もあります。以前とは比べものにならない程、意識変革はあると思います。結婚、友達関係等、生活の中で差別意識はないと思います。(無職)
- ◆ 同和問題を誰が問題にするのかわからない。同和について理解すればするほど差別につながるのでは？人権教育と同和問題を一緒に考えるのがおかしい。(無職)
- ◆ 今の時代に未だに部落差別に拘る人は心の狭い、考えが古い人だと思います。そういうタイプの人(差別する側の人)には心を許さないようにしていますが、差別を受けられる側の人のことを思うと心が痛みます。(無職)
- ◆ 人権教育を公務員として学んできたが、同和問題は15年位前に既に解決したものと認識している。「同和問題」ではなく「人権問題」となったのではないだろうか。(無職)

- ◆ 人によっては根強い差別感を持っている人がいます。この差別が生れた事への歴史的認識、知識はあるのに何故差別するのか判りかねます。現在、私の生活環境の中ではこの問題に関わることは余りありません。唯、こういう差別が無くならないということに根深さがあるのだと思います。学校教育では差別はいけないと習っていても、家の中で祖父母、両親の意識が変わらない限り子供たちの意識も差別の方へ戻ってしまう事があるのではないかと思う。(家事専業)
- ◆ 同和地区に関しての話はない。(無職)
- ◆ もうほとんど差別発言はないのではないかと思います。しかし、中には高齢者の方はこんなこと知っているか？とわざわざ教える人がいる。聞くだけで人には言わない。人権教育を受けていない人がいなくなるまでは待つしかない。しかし、父、母が子供には人間の平等説を教えるべきですね。(医療・福祉)
- ◆ 部落差別について感じたことも思っていることも全くありません。(家事専業)
- ◆ 年齢を重ねて同和地区の人との付き合いも多く友達としておつきあいしております。(無職)
- ◆ 市内の団地なので横のつながりがあまりなく、よくわからない。(無職)
- ◆ 被差別部落が近くにあり、子供の頃から、何となく知っていたが、友達も意識しなかったが、自分の子供が小学校を通うようになって、親も色々、講習や被差別部落の方に出向いて交流会に出席したりで、理解は出来たと思っている。同和教育が何十年と続けられているが、現在の状況は良く分かりません。今だに、時々、差別落書きや、何か事が起きると問題として出てきますが、ほとんどの人が同和教育を受けて育ってきておられるのにどうしてなのかなと感じています。(役員・自営業)
- ◆ 身元調査らしいことではないが、どんな結婚でも多少は調査しますよ。現在は同和に対してあまり気にしている若者は少ない。結婚にしても本人の問題で人間性も性格も当人です。幸せに暮らして人たくさんおられる。もっと温かく見守ってあげたい。(無職)
- ◆ 同和地区を歩いたり、施設(銭湯)を利用したことがあります。皆さん穏やかで温かい人たちでした。(専門職・自由業)
- ◆ 若かった頃の自分自身の誤りに未だに負い目を感じています。結婚を考えた相手の親から反対されました。その理由の一つに被差別部落の出身ではないかと言われたことがあります。両親とも県外の人間であつたりしたことでそのように思われたのかもしれませんが、要するに反対の為の理由だったのだと思っています、その折に私は「違います」と言ったのです。私が差別した瞬間でした。結婚を考えた相手の親にそのようなことを告げられ、とっさに出た言葉でした。悔みました。そのときは夢中でしたが、明らかに私は差別者になったのです。まだ20代でしたがそれ以来いつも心から消えません。現在の自分自身を作るカテになっています。(家事専業)
- ◆ 同和問題の話が出る時になぜこのようになったのかの説明、記載があると分かりやすくなるのでは。ただ何となく知っているのとは違うかも。(無職)
- ◆ 様々な差別の中でも数も多く、歴史的にも根深いものとして同和問題がある。なかなかすぐ全面解消は難しいが一人一人が利他の心を持ち、社会全体で解決していかなければならない。自分の問題として考えることが必要。(無職)

#### 80歳～

- ◆ 私も同和問題をずっと知らなくて、差別などせず成長し大人になって知ったけれどあまり関心はなかった。子供たちも知らないのに部落差別をわざわざ教えることがいいのかと思っている。(無職)
- ◆ 自分が子供のころと比べると差別意識が少なくなり、どんどん良い方向に進んでいると思っています。(無職)
- ◆ 私達以上の年代の人の場合、刮合言葉も汚なかったけど今の若い人は誰もきれいな言葉だから。別に部落差別を掘りおこす事はしなくて良い。私達の年代に人は結婚となるとやはり引かかる。今の若者同志は気にしてないようだ。(無回答)
- ◆ 差別される人の痛みをすべての人がわかって行動をして行けば少しずつでもなくなるのでは。(無職)
- ◆ 60才、70才、80才言葉悪。(無職)
- ◆ 日常的に取り上げて研修を続けるべきと思う。(無職)
- ◆ 現在でも、部落差別について問題になればならない。社会であること(自分を含めて)情けないと思う。(無職)
- ◆ 自分の周りに同和の人がいたとしても、別に差別はしない。以前は色々あった様ですが、今はあまり感じられない。(医療・福祉)
- ◆ 昔、朝鮮からの家族が近くにいましたが、普通に付き合っていました。(会社員・団体職員)
- ◆ ①交流や意見等で過激な実働を行う人の割合が非常に少なくなり多くの人に好感が持てる。②ほんの一部の人に言動が悪いと思われる節がある。③多数の人の知識、言葉、動作等、同和对策事業で家庭環境が良くなり、教育所得も安定したせいか、昔と全然変わっている。もう少しで逆差別されるか?と思われる節もある。(農林漁業者)
- ◆ 現在は見かけない。(無職)
- ◆ 私は鳥取県生まれでないのです。生まれたところでは同和の話は聞かなかった。鳥取に来て初めて、同和問題を耳にしたのでよく知りません。(家事専業)
- ◆ 同和問題について今どんな事が起っているのか勉強してないのでよく分からない。(無職)

#### 年齢未回答

- ◆ 昔の問題であり、風化していくと思うので、小・中学校などで子供に啓発する必要はないと思います。(無回答)
- ◆ 現在でも部落差別があるのですが、何百年も昔の事ですので、あつてはいけないと思います。(無回答)
- ◆ Don't know much. They do not know so keep it that way. (無回答)
- ◆ 人は十人十色であると言われ顔や形が違うのと同じようにものの考え方も多種多様であるということは当然のことと思うということが間違いでないとするれば、広義での差別的なことはなくなることはないように思える。人格の尊重と個人の充実をいかにするかが難しいからです。しかし所謂、

部落差別であるとか人権に関するようなことの差別などは時の経過とともに徐々になくなってゆくと信じている。(無回答)

- ◆ 同和問題全国平等で有ると言う事を国会でとり上げて、差別は有りませんと言う事を、いつまでたってもこの同和問題はなくならないと思いますけど県織り方いろいろ有りますが、ほんとに全国平等ですよ言いたいです。私は同和関係者とは仕事で普通に毎日つき合いをしています、同和問題がなくなる様に心よりお願いします。どうでしょうか?同和問題私が生まれてから今日まで続いています。県職等国会についてほんとに平等に平和に活動出来ます様、本当に、よろしくをお願いします。(無回答)
- ◆ 私の頭の中には言葉は知っていても、普段全て意識(差別等)はありません。その地域の人達も知りませんし(知らずに付き合っていることがあるかも知れませんが)遠い昔のこととして、その言葉も忘れていたのにマスコミ等で問題にすることで、かえって掘り起こされて当事者の方々はどう思っておられるのでしょうか。長い人生の中で、近隣の方、知人の中でこの事が話題になった事は一度もありません。(無回答)

(以上、固有名詞などを除き、回答者原文のまま掲載)